

## プレゼンテーション授業における相互評価に関する事例報告-2-

### The anecdotal report about the mutual evaluation in a Presentation class.-2-

池村 努<sup>\*1</sup>

Tsutomu IKEMURA<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup> 北陸学院大学短期大学部コミュニティ文化学科

<sup>\*1</sup> Community and Culture Department, Hokurikugakuin Junior College

Email: ikemura@hokurikugakuin.ac.jp

**あらまし**：前回の事例報告では、分析力、情報発信力、プレゼンテーション能力向上を目的としたプレゼンテーション授業に、ルーブリックを導入した相互評価の取り組みについて紹介した。ルーブリックを用いることで相互評価に客観的視点を取り入れることができた。本報告では前回の報告後に行った評価基準の見直しと、授業実施方法について改善を内容について報告する。

**キーワード**：プレゼンテーション、ルーブリック、相互評価、アクティブラーニング、

#### 1. はじめに

厚生労働省の調査結果によると、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力は企業へ採用される可能性に関わっているとされている（厚生労働省 2004 年(平成 16 年)「若年者の就職能力に関する実態調査」）。これを受けて著者は「プレゼンテーション演習」を通じコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を図っている。またプレゼンテーション能力の客観的評価基準確立が求められる中、他者との関わりの中で評価する方法が数多く報告されている。

著者は前回の報告にて、プレゼンテーションの評価手段としての WEB アンケート活用について報告した。ここではプレゼンテーション授業において相互評価を行う方法としてインターネット上の WEB アンケートシステムを用い、その有効性について検証した。本稿では前回の報告以降に行った相互評価方法の見直しと、授業内容の改善について検証を行った。

#### 2. 研究概要

本研究はプレゼンテーション演習において、効果的な相互評価方法の構築を行うことを目的としている。相互評価については、様々な研究報告が行われているが、本研究においては前回同様、プレゼンテーション前に配布する、ルーブリックをもとにした評価シートに感想を記入させた後、発表終了後相互に意見交換を行う方法と同時に、評価シートをもとに WEB アンケートを用いて評価する方法について研究を続けてきた。

評価に用いたルーブリックは、前回使用した「ルーブリックを用いた評価基準」を踏襲した(表 1)。この評価項目は、大きく「資料」と「発表」に分けられ、「資料」の中に「内容」「文書構成」「ビジュアル化」、「発表」の中に「発表姿勢」「発声」「アイコンタクト」の基準を設けた。それぞれを 3 段階に分けることで、発表者と視聴者は基準を満たすことが

できているか客観的に確認できるようになっている。

表 1 ルーブリックを用いた評価基準

分類	観点	基準
資料	内容	全てに適切な材料が整っており、要求された内容が記述されている
		材料は十分に揃っているが、記載内容に不備がある
		材料が不十分で、内容に不備がある
	文章構成	文章は論理的な順序で記述され、視聴者は内容を容易に理解することができる
		文章は論理的な順序で記述されているが、部分的に校正不足の記述がある
		不適切な表現や、日本語の文法に誤りがある
ビジュアル化	図や表、図解などが効果的に用いられている	
	視覚に訴えかける工夫がされている	
	文章だけで構成されている	
発表	発表姿勢	聞き手を意識して発表できている
		聞き手を意識しようという、努力は見られる
		聞き手のことを考えずに発表している
	発声	はっきりと大きく発声している
		声は大きい聞き取りづらい 語尾がわかりづらい
		小さな声で聞き取れない
	アイコンタクト	聞き手を見ながら発表している
		聞き手を見ているが、すぐに手元/画面に視線が行く
		手元の資料ばかり見ている 画面ばかり見ている

このルーブリックをプレゼンテーションの前に発表者と視聴者に配布し、発表時に意識させることにより、高い評価となるよう学生に働きかけ、視聴時にはプレゼンテーションをこのルーブリックに基づいて評価を行うよう指導した。学生達はルーブリックに基づいた自己評価と、他者評価を行い、プレゼ

ンテーション終了後相互に評価結果を交換して次回発表に反映した。

WEB アンケートを用いた評価についても、同様にルーブリックを事前に配布し、発表視聴後 WEB アンケートページで回答する。この手法は匿名性が保たれるという利点があったが、発表視聴から時間を置いて回答したときなどには、学生にとって好ましい取り組みとは受け止められなかった。WEB アンケート回答のしやすさについて聞いたアンケート結果(表 2)にあるように、一人ずつ WEB アンケートを行う方がやりやすかったようである。無記名のコメントの中には「視聴後にアンケートをまとめて実施すると、一人ひとりに集中できないため、結局誰の評価をしているかわからなくなったことがある」というものも有った。WEB アンケートは一人ずつ実施することが望ましかったが、上記のアンケート結果を受けて実施方法についての検討を行った。しかし、演習実施教室において、発表視聴とコンピュータ端末操作を同時に行う環境が提供できていないことなどの制約から、発表毎に一人ずつアンケートを実施することは困難となり、2013 年度後期に実施した授業では、WEB アンケートを取りやめ、口頭のみによる相互評価に変更した。

表 2 WEB アンケート回答のしやすさ

(%)	とても 回答し やすい	回答し やすい	回答し にくい	とても 回答し にくい
一人ずつ実施	84.6	15.4	0.0	0.0
3人まとめて実施	46.2	23.1	23.1	7.7
5人まとめて実施	15.4	15.4	23.1	46.2
全員の発表後に実施	0.0	7.7	7.7	84.6

口頭による相互評価の方法は、一人の発表が終了した後、視聴者から複数名指名し、ルーブリックによる評価基準に従ってコメントを述べさせることにより相互評価を実施した。しかし口頭で相互評価を行う場合には互いに気を使うことが多く、当たり障りのないコメントになりがちである。本研究においても同様のことが想定されたため、予め相互評価の際には「良かった箇所」「改善すればより良くなることが期待される箇所」など褒める内容に限って相互評価を行わせた。さらに今回アクティブラーニングの手法を取り入れた少人数グループによるディスカッションに取り組んだ。直接的に伝えることが遠慮される評価項目に関して少人数グループによるディスカッションを通して意見交換を行わせ、「互いの気づき」として報告させることにより、間接的に伝わるように実施した。

アクティブラーニングの手法を取り入れた意見交換は以下のように実施した。

- ① プレゼンテーション実施
- ② 良かった点・改善が望まれる点を評価

- ③ 3~4 人に分かれ意見交換
- ④ メンバーを換え意見交換
- ⑤ ディスカッション結果の報告

グループディスカッションにおける指導として、自らの発表についてと、他者の発表を聞いての相互について発見したことを話し合うよう指導している。相互評価の際、大人数の前で発言できなかった内容が、グループディスカッションにおいて相互に言えることが期待される。

### 3. 授業概要

本研究は「プレゼンテーション演習」「プレゼンテーション応用」という演習科目 2 科目と関連して取り組んでいる。プレゼンテーション資料作成において注意すべき点を座学で学んだ後、PowerPoint を利用したスライドを作成する。テーマとプレゼンテーション対象(ターゲット)が指定されてスライド作成が行われる。テーマは「紹介」を目的としたものから、「説明」「説得」など目的が毎回異なり、想定されるターゲットも同年代から小学生向け、中高年向けなどと細かく設定している。ターゲットを指定することにより、相手に合わせた言葉遣いを考えることなどもプレゼンテーション準備の中に組み込まれるようになる。プレゼンテーションの演習一回の行程には「P(構成を考える)」-「D(資料を作成し発表する)」-「C(相互評価を受ける)」-「A(評価をもとに改良する)」というサイクルが生じることから、反復学習にも有効と考えられる。

指定されるテーマの中にはスライドの代わりに印刷資料を用いた「1対1プレゼンテーション」や、作成者と発表者の役割を入れ替える「自作他演プレゼンテーション」なども取り入れている。「1対1プレゼンテーション」では発表者は営業担当者役となり、手許の資料を用いて説明を行う。このとき「1対多プレゼンテーション」と異なり、説明に対する反応が直接得られることが学生にとって新鮮なようである。「自作他演プレゼンテーション」では作成者と発表者が異なるため、発表者は作成意図を正確に伝える「指示書」の作成が必要になり、「発表者」は「指示書」から意図を汲み取る能力が求められるなど、「自作自演プレゼンテーション」では得られない学びができています。

### 4. 現状と今後の課題

WEB アンケートの運用を 2013 年度前期科目から開始したが、今回報告の通り現在は中断している。学生のネット環境としてスマートフォンが普及していることなどから、再度 WEB アンケートを取り入れ、一人の発表が終わる毎に評価アンケートが行うことを検討したい。評価項目についても、継続して改良を加えていく予定である。

プレゼンテーション授業を通じて、コミュニケーション能力等を高める取り組みを今後も継続していきたい。